

～むすび～

第20代 富山県派遣教員 土田 俊輔

これからよろしくお祈いします

みなさんこんにちは。この度、第3アリアンサ日本語学校で日本語教師として働くことになりました土田俊輔と申します。とても長い歴史のあるこの富山県の派遣事業に参加させていただくことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。県からの派遣としては僕で20代目となり、富山県とJICA(国際協力機構)との共同事業になってから初めての第3アリアンサ日本語学校への教員派遣となります。

日本ではこれまで高校教員として4年間、英語を指導して来ました。3月に初めての卒業生を出し、巣立って行っ

た子たちと共に私自身も新しい世界で頑張りたいと思い、海外で働きたいという夢を叶えるため、この事業に参加することに決めました。

アリアンサに来てからはまだ間もないですが、村のみなさまには様々な面でサポートをしていただき、すぐに生活に慣れることができました。温かい人柄の方が多く、自然豊かな環境でこれから仕事をしていくことが楽しみです。

第3アリアンサ通信は歴代の先生がこれまで書いてこられました。今回は「むすび」というタイトルをこの通信につけさせていただきました。ブラジルへの機内で昨年大ヒットした日本映画を観たのですが、その中にこの「むすび」という言葉が出て来ました。「人を繋げることも結び、時間が流れることも結び」とあり、素敵な言葉だとその時に感じました。「派遣教員同士の繋がり」、「富山とアリアンサとの繋がり」、「私と現地のみなさまとの繋がり」、「現地の1世代から4世代まで繋がり」などの「むすび」を大切にしながら11ヶ月という短い期間ではありますが、アリアンサでの活動に取り組みたいと思います。これからもよろしくお祈いします。



◆ 花祭り 4月8日(土)



↑ 花祭りの様子

日本語学校の敷地内にあるお寺でお釈迦様の誕生日を祝う花祭りが開かれました。毎年4月の第2土曜日に開かれるこの行事には、村の子どもからお年寄りの方まで多くの方々が参加しておられました。日本人のお坊さんが来られ、お経中に出席者が1人ずつ前方の綺麗に彩られたドーム状の花飾りの中におられるお釈迦様の像に柄杓で甘茶をかけ、手を合わせます。

子どものお祭りの1つであるそうで、昔はたくさんの子がいて賑やかなお祭りでしたが、地域の子がだんだんと減るにつれて少し寂しくなっていると村の方が私に教えてくれました。村の伝統行事を次の世代に引き継いでいくことがなかなか簡単なことではないのだと話を聞きながら感じました。



↑ ドーム状の花飾り

◆ 日本語学校の授業開始

第3アリアンサ日本語学校で授業が始まりました。子どもの数は2年前よりも少し減り、6名でスタートしました。近隣の日本語学校の中では最も少ない数です。それぞれ1週間に3回登校することになっており、その内1回は6名全員で活動する日になっております。活動日には遊びなどを通して日本語を学習する予定です。

多くの子どもたちにとって日本語の勉強は1年ぶり、学習したことをすっかり忘れてしまっているようでした。しかし、90分の授業に楽しそうに一生懸命に取り組む姿にとってもやりがいを感じています。6名の子どもたちと共に私自身も楽しみながら成長していきたいです。



↑ 教室の様子